

## PFASの汚染問題に取り組む

### 「全国連絡会(仮称)」設立

#### 脱プラサークル

今年2月、東広島市の住民の血液からアメリカの指標の110倍という値を検出というニュースをみました。東広島市八本松町宗吉の飲用井戸を使用していた住民です。近くには、アメリカ軍の川上弾薬庫があります。2024年に飲用水として全国最悪のPFAS濃度が検出され、2025年、住民たちは、東広島市に公費での血液検査を求めましたが、市は「不安を煽るだけ」と応じませんでした。

秋、住民たちが自ら、検査費用を出して、検査が行われました。結果は、アメリカの指標の110倍を超え、専門家である京都大学の原田浩二教授は「極めて異常な値」と話していました。今のところ汚染源は特定されていません。

住民たちは、ショックを受けながらも、「血液検査を受けたことは良かった。自分の体について知っておきたい。データーを活用して、今後に役立ててほしい・・・」と大変健気な話をしていたのが印象に残りました。原田教授は、「PFAS汚染は広がる可能性がある。なるべく早く、発生源を特定し、対策を講じる必要がある」と話していました。

次々に汚染が発覚しているPFASについて、水道水の水質基準見直しなどを求め、PFAS汚染に取り組む18都道府県42の市民団体が、3月19日、国会内とオンラインで集会を開きました。「50ナノグラムは、大変ゆるい値。安全とは言えない」「汚染源を特定してほしい」と次々に意見が出ていました。食品安全委員会や環境省に要望を提出しています。そして、新たな組織「全国PFAS連絡会」(仮称)を設立しました。

また、情報があればお伝えします。



(Tansa より)